

満席になった県・市民公開講演会場。三重県鍼灸師会創立50周年にあたり、造園家で、東京農業大学前学長の進士五十八先生からお話しいただいたテーマは「自然と農と健康」。

たいへん深い意味を持つテーマですが、古くから自然とともに暮らす日本の生活習慣と伝統文化の素晴らしさや、相手をやっつけてしまうという発想ではなく、それぞれが存在する意味を考え、お互い上手に助け合って共に生きるという共生の考え方は3つあり、それは「生物的自然との共生」、「資源エネルギーとの共生」、「違った地域同士の助け合い(共生)」。

大きな都市は人工化が進んで過密化し、自然を失うとともに人間性も失ってしまい、自然がなくなるということは、植物がなくなっていくと同時に人の心がなくなるということに触れられ、「今日お越しの皆さんは、思想を持ちながら行動することが人間をつくり、それが自分の運命を決めていくということを多くの方々に伝えていただきたいと思います」と私たちの暮らしと健康につながる大切なことについて語っていただきました。

会場を満席にして下さった県・市民の皆さんは、講演の内容からそれぞれの生活習慣を見直されるとともに、自然の大切さを再認識されたことでしょう。会員も今後の課題とともに臨床に活かす術を学ばせていただきました。



県・市民公開講座風景

第9回リーディング産業展みえ2011

2012年11月2日(水)~3日(祝) 四日市ドーム

昨年を上回る7800名という来場者があり、東北大震災の被害地域から届いた特産品コーナーもあったリーディング産業展。

出展企業も来場者と同様に昨年を上回り、三重県を基盤とする企業の活動や新製品の展示など、活気のある情報提供や収集のできる展示会となっていますが、今回も県内の企業がしのぎを削るイベントの医療・健康・福祉ゾーンに出展しました。

本会は3回目の出展となりますが、健康相談、鍼体験という定番の方法だけではなくマーケティング調査を兼ねたアンケートを行い、また、リーフレットなどの配布も行いましたが、配布するグッズの中でツボカレンダーが一番人気の品として定着してきました。

県内で行われる県・市主催の健康関連イベントには3ヶ所にエントリーしていますが、アンケート調査や鍼体験をされた方々にいただいたコメントから、「鍼灸治療に対するニーズ」への対応が大切です。この産業展は、参加企業の皆さんの確かな技術や、ユニークなアイデアが会場内にあられ、健康主体のイベントにはないところがたいへん参考になりました。

今後も「県・市民のための事業」として、一般来場者だけではなく企業やそのご家族の皆さんにも健康の大切さを伝えていくアイデアを出して参加してまいります。



健康相談に応じるスタッフ

第43回 三重中日お伊勢さんマラソン

2012年12月11日(日) 三重県営総合競技場

「お伊勢さん」のおひざ元である伊勢路を走る人気の市民マラソンに、全国から集まったランナーは9700名。ランナーの皆さんは絶好のレース日和のなか、紅葉が残る師走のレースを楽しんでいました。

本会は、日本鍼灸師会専門領域（スポーツ傷害）研修会終了後にケアチームを立ち上げたのち、県が推進する「ヘルシーピープルみえ21」に参加し、「市民スポーツにおける正しいコンディショニングと、長く楽しくケガをせずにスポーツを行うことができる知識を持つ人の増加を図れるよう取り組む」という目標を持って、四日市市、津市、伊勢市の市民マラソンでランナーのケア活動を行い、また、市民ランナーだけでなく、ボランティアスタッフとして参加した学生を対象にコンディショニング講座を行っています。

市民ランナーにご協力いただいたアンケートでは、流行でスポーツを始めたという方もあり、また、他の競技場でのケア活動を希望される声も多く、スポーツと健康を考える人口の増加がうかがえますので、ケアチームは活動の内容を充実させるべく常にスキルアップを心掛け、適切なアドバイスを行いながらケガを未然に防ぐとともに、スポーツ人口の増加に貢献してまいります。



スタート風景とケア活動を行うスタッフ

第6回 子育て応援！わくわくフェスタ

2012年1月14日(土)・15日(日) ムッセウイング・みえ

「心つながる ありがとう」をテーマに、「第6回子育て応援！わくわくフェスタ」（みえ次世代育成応援ネットワーク・県健康福祉部こども局）が開催されました。

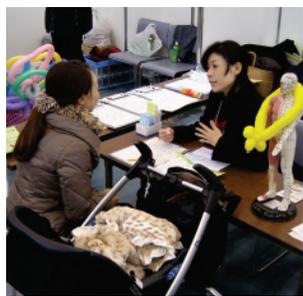
本会は、毎年2万人を超える来場者のあるビッグイベント参加に向けて、昨年度から視察して準備を進めてきましたが、今年度より、子どもや子育て家庭をささえあう地域社会づくりに取り組む地域の企業・団体で作る、「みえ次世代育成応援ネットワーク」のメンバーとなり、初出展して来場者の皆さんを迎えました。

このイベントは子育て家庭が主役ということで、小児はりの説明や体験が中心になりましたが、年配の方々の相談も多くありました。

まるでおもちゃ箱の中のように賑やかな会場は、あちこちから子供たちの笑い声が聞こえ、鍼灸医学を幅広い年齢層に伝えられたと実感できる2日間でした。



身動きが取れないほど多くの来場者でにぎわった会場



「小児はり体験ブース」に訪れた子育て家庭に対応するスタッフ

第6回 津シティマラソン大会

2012年1月29日(日) 津市安濃中央総合公園

寒空の下、第6回を迎えた本レースに県内外から参加されたランナーは2500名。この日のゲストランナーは、「オグシオ」の愛称で人気のバトミントン元日本代表の小椋久美子さん。

毎年三重県内各地で行われるレースの中で、3ヶ所にケア活動チーム「スポーツ鍼灸セラピー三重」を派遣していますが、この日は11名のスタッフと、この活動に興味を持っていただいた一般女性に受付を手伝っていただき、予定より開始時間を早めての活動となりました。

ケア会場には100名を超えるランナーが訪れました。レース前後に鍼、テーピング、ストレッチなどのコンディショニングと、スタート後の閑散時間帯には健康指導、健康情報パンフレットの配布を行いました。毎年本会ブースをご利用いただく方や、他会場での利用経験がある方など回を重ねるにつれて利用者が増えています。

日常の臨床とは違うテクニックを必要とされるスポーツ現場ですが、スポーツの初心者からベテランの方までケガの防止と楽しいスポーツライフを目指して健康増進に結びつけられるよう、市民ランナーのサポーターとして、今後も行政が主催するイベントの協力団体として続けていこうと感じた一日でした。



トレーニングマシンなどが充実した環境の中で行ったケア活動とスタッフ

四日市健康フェスティバル

2012年2月12日(日) 北勢健康増進センター

平成8年から16年連続参加となり、また、市主催から実行委員会運営となってから10年が経ちますが、本会の恒例行事としてすっかり定着した四日市健康フェスティバル。

本フェスティバルには、これまで健康相談を基本としてミニ公開講座、円皮鍼などの鍼体験、小児はり体験、コンピュータ・ツボ診断などの各コーナーを設置し、介護予防運動指導員による介護予防元気度チェック（脚力などの測定）、スポーツケアチームのメンバーによるテーピングや操体法で痛みや緊張をやわらげるといった方法を行い、また、広報誌やパンフレットなどを配布するなどの内容で取り組んでいます。

健康相談イベントへは県主催のものに合わせて3つに、市民マラソンなどのスポーツイベントには県内3ヶ所にケアチームを派遣していますが、各イベントでは、毎回多くの市民の皆さんが並んで順番を待っておられることから、健康に対する意識とともに東洋医学への関心の高さを知ることができます。

県市民の健康保持増進のために技術提供できるよう、会員は常にスキルアップをめざして年間プログラムされた研修会（一般参加可能な公開制）で学んでいます。



平成6年から連続参加して行っている健康相談風景